

課題名	ピアの低木仕立法																																
成果の要約	<p>盃状形にすることによって樹高は低くなるが、1年生枝数および着房枝数は無整枝区より少ない。</p>																																
成績概要	<p>作業が容易な樹移への仕立て方法を検討中である。</p> <p>(1) 樹高は盃状形の2区が低い。 (2) 幹周および樹冠の大きさには、処理間に差はなかった。 (3) 1年生枝数、着房枝数は無整枝区が最も多かった。 (4) 収量は処理間に差はなかった。 (5) 果実の1果平均量は盃状形の2区が小さかった。</p> <p>第1表 樹 体</p> <table border="1" data-bbox="210 1602 1533 2122"> <thead> <tr> <th rowspan="2">処 理</th> <th rowspan="2">幹 周</th> <th rowspan="2">樹 高</th> <th colspan="2">樹 冠 の 大 き さ</th> </tr> <tr> <th>東 西 径</th> <th>南 北 径</th> </tr> <tr> <td></td> <td>cm</td> <td>cm</td> <td>cm</td> <td>cm</td> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>盃状形(接ぎ木)区</td> <td>34</td> <td>221</td> <td>355</td> <td>329</td> </tr> <tr> <td>盃状形(取り木)区</td> <td>30</td> <td>219</td> <td>306</td> <td>283</td> </tr> <tr> <td>変則主幹形区</td> <td>31</td> <td>284</td> <td>294</td> <td>310</td> </tr> <tr> <td>無 整 枝 区</td> <td>35</td> <td>298</td> <td>268</td> <td>270</td> </tr> </tbody> </table>	処 理	幹 周	樹 高	樹 冠 の 大 き さ		東 西 径	南 北 径		cm	cm	cm	cm	盃状形(接ぎ木)区	34	221	355	329	盃状形(取り木)区	30	219	306	283	変則主幹形区	31	284	294	310	無 整 枝 区	35	298	268	270
処 理	幹 周				樹 高	樹 冠 の 大 き さ																											
		東 西 径	南 北 径																														
	cm	cm	cm	cm																													
盃状形(接ぎ木)区	34	221	355	329																													
盃状形(取り木)区	30	219	306	283																													
変則主幹形区	31	284	294	310																													
無 整 枝 区	35	298	268	270																													

第2表 着房の状況

処 理	1 年 生 枝 数	着 房 枝 数	着 房 率 %
盃状形(接ぎ木)区	359	244	70.6
盃状形(取り木)区	268	199	74.3
変則主幹形区	341	264	77.4
無 整 枝 区	514	410	79.8

第3表 収量および果実の品位

処 理	果数	重量 g	1果平 均量 g	階 級 別 個 数 割 合 (%)					品 値 別 個 数 割 合 (%)		
				2L	L	M	S	格下	秀	優	格 外
盃状形(接ぎ木)区	26	806	31	4	15	39	19	23	58	19	23
盃状形(取り木)区	31	990	32	3	23	39	10	26	68	13	19
変則主幹形区	22	799	36	5	36	32	18	9	68	18	14
無 整 枝 区	43	1442	34	2	28	42	12	16	58	28	14